

# NHK交響楽団×野平一郎プロジェクト シリーズI～バロック編～

## NHK交響楽団とグランシップのコラボ企画!

グランシップで楽しめるジャズやクラシックなどの多彩なコンサート。今年度からは、グランシップのラインナップに新しい楽しみが加わります。国際的な活躍もめざましく、日本を代表するオーケストラであるNHK交響楽団が、グランシップとのコラボレーションでコンサートシリーズを展開。第1弾はクラシック音楽の歴史を辿るように、バロック音楽からのご案内。さらに、日本を代表する作曲家でピアニストの野平一郎氏が、グランシップが委嘱した新作をオリジナル三部作で制作し、発表します。静岡から全国に、2020年に向けて世界に発信できる大きな文化的財産となることが期待されます。



### 第1弾はバロック音楽から

1600年頃から栄えたバロック時代は、現在の音楽の歴史の礎ができたと言える時代。それ以前にも、もちろん音楽はありましたが、教会音楽を中心とした口伝による歌が中心となって民衆に親しまれていました。イタリアを中心に栄えたこの時代は、代表的な作曲家ヴィヴァルディなどが活躍したこと、それに伴ってヴァイオリンなどの弦楽器がクレモナ地域で多く作られたことで繁栄し、イタリア以外のドイツやイギリスにも大きな影響を与え、バッハやヘンデルなども大いに活躍しました。今回は、ヴィヴァルディの「四季」などをN響メンバーが披露。日本ではクラシックの代表曲に例えられ、誰もが一度は耳にしたことのある色彩豊かな名曲です。12本の弦楽器に加え、軽やかに響くチェンバロの音も聴きどころのひとつ。また、今回7名全てのヴァイオリニストがソロで演奏しますので、こちらも見どころですね。1年後の第2弾では、バロックの次の時代、1750年頃からの古典派の音楽を予定。時代が進むごとに音楽も次第に大きくなっていきます。

### 野平一郎氏、渾身の集大成

日本を代表する作曲家であり、静岡では静岡音楽館AOIの芸術監督として知られる野平一郎氏は、フランス文化庁をはじめ、国内外で数多くの委嘱作品の実績があり国際的に広く活躍し、高い評価を受けています。本シリーズでは、3つの作品を三部作として3年間かけて制作し、2020年にはフル・オーケストラ編成の楽曲として完成させる大プロジェクトをN響と展開します。今回は、アンサンブルの編成に合わせた楽曲を第1弾として披露。

## NHK交響楽団×野平一郎プロジェクト シリーズI～バロック編～

3/3(土) 15:00～ ■ 中ホール・大地 ■ S席4,100円 A席3,100円 こども・学生1,000円

【予定曲目】 A. ヴィヴァルディ：ヴァイオリン協奏曲集〈和声と創意への試み〉より「四季」Op.8 No.1～4  
J.S. バッハ：3つのヴァイオリンのための協奏曲ニ長調BWV 1064a

【出演】 ヴァイオリン：白井篤、松田拓之、三又治彦、宮川奈々、山岸努、横島礼理、横溝耕一  
ヴィオラ：坂口弦太郎、中村翔太郎 チェロ：西山健一、山内俊輔 コントラバス：西山真二 チェンバロ：植山けい

これからの予定

2019年3/24(日)  
2019年6/27(木)  
2020年

NHK交響楽団×野平一郎プロジェクト シリーズII～古典派編～  
NHK交響楽団特別コンサート  
NHK交響楽団×野平一郎プロジェクト シリーズIII～野平一郎三部作完結編～

## 野平一郎氏に聞く。

### このプロジェクトはどのように展開されていくのでしょうか？

Q 今回、静岡をイメージして作曲をしていたと思いますが、作曲にあたって静岡の印象など、イメージされたものは具体的にありますか？

静岡の何か具体的なものを「描いた」作品ではありません。例えばですが「交響曲偉大な富士」とか「交響詩登呂遺跡」という類いの音楽は、自分の領域ではありません。むしろ今回の作曲は、自分が今まで追求してきたさまざまな響きの集大成としての三部作になる予定です。時間や空間の「歪み」、触知できない領域の探究、音響の多様性……といった私の追求してきた音楽の総決算です。それは現代という不安定で虚無な世界を音楽のテクニクに映し出したものです。静岡は、しかしそこで「抽象的」ではありませんが大変重要な役割りを演じています。私にとって、その中で最も大切なイメージとは、静岡が日本一の空間を

擁する地域であること、そしてそれを得てきた気の遠くなるような膨大な時間、というものです。一方で富士山という日本で最も高い山があり、他方駿河湾の日本一低い海底の峡谷があります。このダイナミックな空間は、日本のはるか南での誕生からおよそ6000万年の歴史が作ったものであり、この途方もない時間と空間のイメージが今回の三部作の「根」となっています。

Q シリーズIは小編成のアンサンブルでの演奏ですが、初めの作品として、その特徴、聴きどころはどんなところでしょうか。

私は、この三部作を1つの連続したもの、という風にとらえています。今回、その第1曲という意味では「序」にあたりますが、決して音楽のジャンルや形式が言うところの「序曲」ではあ

りません。しかし今回は小編成のアンサンブルであり、作品が第2曲、第3曲と進むにつれて編成の「クレスシェンド」が起きます。このことはこの三部作でも重要なことです。今回予定されているのは、個々の作品の演奏ですが、もし将来この3作品を続けて演奏する機会が訪れたとしたら、その「大きな」構成が浮かび上がってくるでしょう。編成的にも小さなもの（小編成のアンサンブル、ないしは室内楽が増幅されたもの）から始まって、大きなもの（大編成の管弦楽）へと移行して行くことで、同じ音楽的アイディアの飛躍的な発展を感じられると思います。また第1曲の編成は西洋のバロック期に中心だったもの、また第3曲の編成は近代現代に確立したものであり、ここにも同じ音楽思考の時間軸にそった異なった現われ方を体験していただくことが出来るでしょう。実はそのとてつもない「幅」が、静岡に於ける時間と空間の広さにも直接関係してきます。この第1曲では、大編成のオーケストラとは対極的にある、弦を中心にしたアンサンブルの多様性を持った響き、その繊細さを楽しんでいただけると思います。アンサンブルは個々のソロ・パートへと大変細かく分かれて行きませんが、それが集まって1つの大きなうねりを作るところもあります。その意味でも大きな「幅」を感じていただけることと思います。最後になりましたが、チェンバロという古楽器も、弦のアンサンブルとともに大変活躍します。

Q N響とはこれまで様々な形でこ縮されてきたと思いますが、N響が野平先生の作品を演奏するにあたって、どのようなことを期待されますか？

N響は毎年その年1年間に初演された最も素晴らしい管弦楽作品に贈られる「尾高賞」を主催していて、またその受賞した作品を演奏します。私は過去2回それを受賞し、それぞれ素晴らしい演奏をしていたことが出来ました。しかしそれは賞という性格上「再演」です。今回は「初演」ということで、日本一素晴らしい、最も機能的なオーケストラであるN響が、どんな響きを作ってくくださるかとても楽しみです。そしてこうしたN響の個々の奏者が持つ名人芸を考慮し活用する「管弦楽のためのコンチェルト」のような発想があります。それもこの作品の聴きどころとなります。

Q 2020年にむけての文化プログラムとして、複数年にわたるシリーズとなりますが、静岡から音楽を通して世界に日本の文化を発信することにはどのような想いがありますか？

私はこれまで日本のあらゆる地域のホールで演奏したり、作品を演奏されたりしてきました。その中で一番縁が深かったのが「静岡」です。特に現在芸術監督を務めている静岡音楽館AOIは開館以来、さまざまなステージをこなしてきたことで最も関係の

深いホールとなりました。音楽家を育ててくれるのは「ホール」であり、その企画・音響・聴衆等すべてのファクターが関与していきます。ホールが音楽家を育てていくという意味で、私と静岡との関係には大変深いものがあります。芸術監督としていつも気にかけていることは、ホールと地域との密着性です。2020年はオリンピックの年ですが、「インターナショナル」という意味を考える良い機会になると思います。すなわち「他方」と「通行」で物事を発信するのではなく、相互関係が重要だと言うことです。日本文化の発信も重要ですが、それが他の文化との関わりで今後どのように動いて行くのか、推移して行くのかということに今最も関心があります。芸大で若い作曲家たちを日頃見っていますが、彼らは西洋音楽と日本の伝統を二重に背負いながらフレキシブルに揺れ動いて自由で新しい感性を見せています。こうしたことが新しい時代を築いて行くのであろうし、2020年という年がそうしたことに少しでも寄与できれば良いのではないのでしょうか。文化とは、また何か特別なものではなく、日々の生活でもあります。静岡は日本の中でも古いものが残っている文化的に大変重要な場所だと思っていますが、国際的に見てこれからそれがどのように発展していくのかが問われると思います。

### 野平一郎 (作曲、ピアノ)

東京藝術大学大学院修了後、パリ国立高等音楽院に学ぶ。ピアニストとしてソロ、オーケストラとの共演などを重ねる一方、室内楽奏者としても内外の名手たちと数多く共演する。作曲家としては、既に80曲以上に及ぶ作品を発表している。第13回中島健蔵音楽賞、芸術選奨文部大臣新人賞、第11回京都音楽賞実践部門賞、第55回芸術選奨文部科学大臣賞、第44回、第61回尾高賞を受賞。2012年芸術選奨受章。現在、静岡音楽館AOI芸術監督。東京藝術大学作曲科教授。